

スペースXとは 事業の全体像

ロケットの打ち上げサービスと衛星インターネット「スターリンク」を柱にする米国企業です。公表資料で確認できる範囲を、事業・再使用・通信・月着陸・日本との接点の順に整理します。

名前はよく聞くけれど、
この会社は何で稼いでいるんだろう。



公表資料で確認できる事業の柱

01 打ち上げサービス LAUNCH

顧客の衛星・物資・人を運び対価を受け取る

請負

02 スターリンク STARLINK

自社の通信衛星でインターネット接続を提供

自社サービス

03 NASAとの有人輸送契約 CCtCap

クルードラゴンとファルコン9で最大4名を輸送

政府顧客

04 打ち上げと運用が同じ社内 IN-HOUSE

打ち上げ手段を他社から調達しなくてよい構造

構造

運ぶ側と衛星を使う側が同じ会社だと、何が変わるんだろう。



第1段を回収して繰り返し使う

2025年の打上げ数（軌道投入用・成功のみ）

165回

世界316回・米国192回のうち。内閣府宇宙開発戦略推進事務局調べ

- NASAが挙げる再使用の狙い
費用・信頼性・安全性・打上げ頻度の四つ
- 引き換えになるもの
低軌道へ運べる質量は使い捨て約22,800kg・回収時約15,600kg

回収の分だけ運べる荷物は減る

実績値と計画値を分けて読む

軌道上で稼働している機数

9,603 機

2026年1月末時点・宇宙事務局調べ。目標機数34,396
機は計画値

- 提供の広がり

155ヵ国・900万人が利用（2025年12月時点）

- 公表されていない数字

今回確認した公的資料に売上・利益・事業別の内訳の記載なし

実績値・計画値・試算値を区別して捉える

日本との接点はどこにあるか

01 **au Starlink Direct** KDDI
2025年4月10日に提供開始。空が見えれば圏外でも通信

通信

02 **できること** SERVICE
テキスト送受信・位置情報の共有・Jアラートの受信

開始時点

03 **日本人宇宙飛行士の輸送** CREW
2025年8月、油井宇宙飛行士がファルコン9で打ち上げ

有人

04 **日本側の政策目標** POLICY
2030年代前半までに国内打上げ能力を年間30件程度確保

目標値

スマホがつながる話まで、同じ会社の衛星につながっているんだね。



まとめ | 公表資料で確認できること

01 柱は打ち上げサービスとスターリンクの二つ

02 2025年の打上げは世界316回のうち165回

03 月着陸の時期は見直しの途中で未確定

数字は三つに分けて読もう

実績と計画と試算。並んでいても、
意味は違うんだ。

